

中期経営計画

2019 年度～2024 年度

「健康で明るく、心豊かな文化のかおるまちを目指して」

2019 年（平成 31 年） 3 月

公益財団法人 浜田市教育文化振興事業団

目 次

1	中期経営計画の策定	1
(1)	計画策定の趣旨	1
(2)	計画期間	1
2	事業団を取り巻く現状と課題	2
3	事業団の実績	4
4	経営の基本方針	5
5	事業団が目指す地域像と組織	7
6	各施設の現状と課題	8
7	各施設の運営の方針及び取組み（個々の取組み）	10
(1)	浜田市世界こども美術館創作活動館	10
(2)	石央文化ホール	11
(3)	浜田市立石正美術館	12
(4)	アクアみすみ・浜田市室内プール	14
(5)	浜田市三隅B&G海洋センター	16
8	重点取組み項目（具体的取組み事項）	18
9	収支計画	20
10	計画の推進に向けて	22
11	事業組織図	23

1 中期経営計画の策定

(1) 計画策定の趣旨

公益財団法人浜田市教育文化振興事業団（以下「事業団」という。）は、浜田市が 1996 年（平成 8 年）に設置した「世界こども美術館創作活動館」を管理運営することを目的として、1996 年（平成 8 年）に設立された財団法人浜田市教育文化振興事業団が前身です。

その後、自治体を広域することによって財政基盤を強化し、地方分権の推進に対応することなどを目的とした平成の大合併により、2005 年（平成 17 年）10 月 1 日に、浜田市、金城町、旭町、弥栄村、三隅町の 5 市町村が合併し、新「浜田市」が誕生したことに伴い、旧三隅町にあった財団法人三隅町教育文化振興財団との合併を経て、また、旧三隅町が担っていた各施設の管理運営も併せ請け、「健康で明るく心豊かな文化のかおるまちづくり、並びに国際的な文化活動の推進に寄与する」という設立目的に沿った事業活動を行ってきました。

2004 年度（平成 16 年度）に指定管理制度へ移行した後も、指定管理者として、世界こども美術館創作活動館、石中央文化ホール、石正美術館などの管理運営を引き続いて担い、2018 年度（平成 30 年度）には、浜田市室内プールの指定管理を新たに請けています。

この間、民間的経営手法により、効率的な維持管理運営と多彩な事業を行うことにより、市民サービスの向上や利用者の満足度を高めることに努め、また、2013 年（平成 25 年）4 月 1 日から公益財団法人として公平公正を旨とし、地域の活性化に寄与すべく、事業団経営を着実に推進してきました。

事業団の活動分野である文化・スポーツは、ひとの心を豊かにし、健康にするだけでなく、人と人を結びつけ、生きることへの励みとなり、生きる力を生み出します。

事業団をはじめ、各関係機関がお互いの連携を深め一体となることにより、浜田市の目指す「住みたい、住んで良かった魅力いっぱい元気な浜田～豊かな自然、温かい人情、人の絆を大切にすま～」の実現につながるものと確信します。

事業団は、「健康で明るく、心豊かな文化のかおるまちを目指して」をメインテーマに、今後進むべき方向を定めた基本方針に沿った事業活動を行うとともに、組織の安定的な運営を実現していくため、ここに中期経営計画を策定します。

(2) 計画期間

2019 年度（平成 31 年度）から 2024 年度（平成 36 年度）までの 6 年間の計画とします。

本計画は、年度毎の事業計画策定等に資するため、一定期間を見据え取りまとめるものですが、社会状況や環境の変化を踏まえ、本計画の実現達成のために必要に応じて見直しを行い、効果的な事業の推進に努めます。

2 事業団を取り巻く現状と課題

(1) 少子高齢化社会、高度情報化社会等のさらなる進展

日本経済の低迷や経済、社会のグローバル化、少子高齢化の進行に伴う人口減少社会の到来により、社会環境は大きく変化しています。

また、インターネットなど情報媒体の普及は著しく、多くの情報があふれる中、文化・スポーツの分野でも常に新しい流行が生まれ、多くの人が一つのことに熱中する傾向から多様化へと大きく様変わりしてきました。

こうした変化の中で、文化芸術やスポーツ振興の意義・可能性や市民の「する・観る・支える」の意味が改めて問い直されています。

(2) 文化施設に対する役割の変化

ネット社会の広がりやグローバル化により、日本独自の文化成熟が進み、活性化施策としての文化振興も形を変え、進展していくと見込まれます。2012年（平成24年）に施行された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（通称「劇場法」）に基づく文化・芸術振興施策は、全国約2,200の施設の棲み分けを促進し、大都市および地方の地域社会の中で、存在する価値が問われています。

一方で、全国的に人口減少の局面に入り、地方自治体の文化施設の生き残りをかけた厳しい時代に迅速適切に対応することが必要になってきています。

(3) スポーツ振興の機運の盛り上がり

2020年（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピックに代表されるように、また、島根県においても、2度目の国民体育大会の誘致が進められるなど、大規模なスポーツイベントの開催が予定されており、これらの開催に向けたスポーツ振興の動きが活発になってくることが予想され、これらのことから、参加国の選手や関係者、県外の選手や関係者と交流を深める機会も増えることも想定されます。

また、市民のスポーツ・健康への関心の高まり、障がい者・健常者のスポーツへの相互理解についても、更に進むものと推察されます。

(4) 島根県内における文化・体育施設の役割

2018年（平成30年）4月現在において「島根県公立文化施設協議会」に加盟する文化施設は、県内30施設となっています。また、県西部においては、協会に加入の如何を問わず、市町の所有する類似する施設がほぼ全市町に存在しています。近隣の益田市には県内最大級の施設も存在し、島根県西部の文化振興に大きな役割を担っています。

体育施設にあっても、市町の所有する類似する施設が、県西部のほぼ全市町に存在しています。浜田市には、島根県立体育館、島根県立武道館が存在し、相まって島根県西部の社会体育の振興に大きな役割を担っています。

事業団としては、ここ浜田市に存在する施設の役割を明確にし、特色ある活動を展開していく必要があります。

(5) 厳しい経済環境の中で経営構造の変化

国、地方自治体とも厳しい経済環境の中、難しい政策や施策を迫られています。

浜田市も厳しい財政状況の中、多くの施設の老朽化対策やインフラ整備等の対応に迫られており、今後、市民の文化・スポーツの振興に対する運営面の予算措置にも影響が及び、事業団の経営環境も非常に厳しくなることが予測されます。

そのため、自主財源の確保に向けた積極的な取り組みや自主財源を計画的に積立てられる経営基盤の安定化が必要です。

(6) 施設・設備の大規模改修の必要性

世界こども美術館創作活動館、石中央文化ホール、石正美術館など、高度経済成長時代に建設された浜田市の公共施設の老朽化は広範囲に及んでいることから、浜田市においては、2016年（平成28年）3月に策定した「浜田市公共施設再配置方針」に基づき、「公共施設再配置実施計画」が策定され、今後における建替えや改修を考慮した施設の在り方が検討されています。

いずれの施設においても、経年劣化に伴う現状には特筆すべきものがあり、早急な対応が求められます。

3 事業団の実績

(1) 各施設利用者の推移

事業団においては、それぞれの管理施設において、様々な事業を展開していますが、過去5年間の各施設利用者の推移は次のとおりです。

(単位：人)

施設名	平成25年度 (2013年度)	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)
浜田市世界こども美術館創作活動館	56,531	47,506	51,968	47,703	47,582
石央文化ホール	68,037	51,560	53,044	56,374	47,441
浜田市立石正美術館	12,974	17,805	15,256	14,914	12,170
アクアみすみ	61,207	67,482	70,550	69,346	68,606
浜田市三隅B&G海洋センター	6,880	4,394	6,130	8,357	8,479
浜田市室内プール(福井誠記念プール)	—	—	23,919	27,766	34,106

(2) 利用者の推移から見る課題

「2 事業団を取り巻く現状と課題」で述べたとおり、少子高齢化個々のニーズの多様化などにより、いかに利用者の心をつかみ魅力ある事業を展開していくか、その見極めが極めて難しい現実があります。

また、多くの施設が、建設されて数十年が経過しており、施設環境としても利用者の要望に十分添える施設とは言い難い現状にあります。

4 経営の基本方針

(1) 市民の共感を得る事業の展開

浜田市は、日本海に面した北部の漁業と、中国山地の連なる南部の山間部を有し、自然豊かな景勝地など見所がいっぱいのまちです。

少子高齢化に伴い、子どもの数は減少し高齢者の数は増加しているなどの地域の特性はあるものの、豊かな歴史文化の資産と市民の知識、知恵を活かし、創造する喜びを実感できる普及啓発、創造事業や市民育成事業およびスポーツ事業を市民に知っていただけるように文化スポーツが融合した浜田を象徴されるような事業の創造に向けて、共感を得る事業展開を行います。

(2) 市民のための文化・スポーツの活動拠点の機能の向上

文化においては、誰もが親しめる文化芸術の鑑賞事業の提供を行い、また、発表を行う方々の利用に供し、幅広い方々に対し多様な文化芸術活動との触れ合いの場を提供していきます。

スポーツにおいては、日常生活におけるスポーツ実践への取組を、子どもから高齢者までのあらゆる市民を対象に、いつでも誰でも気軽にスポーツに触れ合うことのできる場の提供をしていきます。

今後さらに内容を充実させ、文化・スポーツの情報発信提供に取り組み、人々が集い、共に生きる絆を形成するための地域の活動拠点の機能を高めるとともに、地域の文化・スポーツ振興の活性化を支援していきます。

(3) 施設利用者を増やす取り組み

子どもや高齢者だけでなく、子育て世代などのあらゆる市民が利用参加しやすい文化・スポーツの事業を積極的に行うことで人々が集い、共通の目標を持つ人が、他の人を誘って事業に参加される仕掛けづくりをしていきます。

また、多様化するSNS（Twitter、Line、Facebook等）の情報伝達メディアに対応した情報発信事業や活動支援事業の提供や、事業団独自の会員制度の再構築をし、常に市民との接点を持つ努力を重ねながら事業団のファン拡大と醸成につなげていき、施設を訪れる人を増やします。

(4) 市民や諸団体等との連携

文化による地域活性化を目的とした市内文化芸術団体、行政、市内外企業との連携事業や、市民自らがスポーツを通じて健康づくり・仲間づくりができる環境整備を目的とした地域スポーツクラブの集約とイベント共同開催を行う地域スポーツ活性化事業を積極的に行い、まちを元気にするとともに、事業団と施設を人々が集いつながる場にします。

(5) 財源確保と効率的な事業運営による安定的な経営

公益性を担保しつつ自主財源の積極的な確保を図り、助成金や補助金の確保に努めるとともに効果的な事業選択、効率的な事業執行を行い、安定的な経営を図ります。

(6) 公平・公正な運営

透明性を確保し、公平公正な運営を行うとともに、事業と人員の適正化に努め、人材育成と労働環境の健全化を図ります。

(7) 施設機能を最大限に活かした施設利用者の利便性の向上

利用者の様々なニーズに応え、時代に適応した施設であるために可能な範囲の改修により施設のもつ機能を最大限に活かし、また、新しい設備・備品を設置することで利用の幅を広げ、利用者の利便性を図ります。

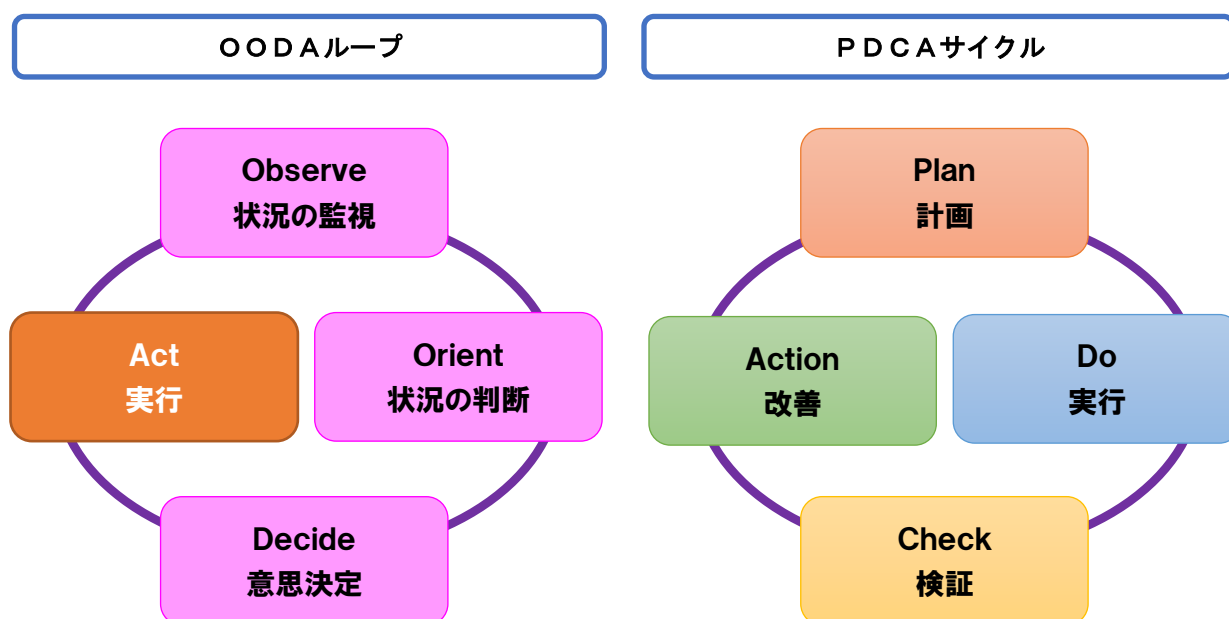
さらに、貸館申請やチケットの販売等の手続きを簡素化できるよう、窓口システムの整備を検討していきます。

(8) 外部評価を活用した利用者の満足度向上への取り組み

当事業団の施設管理や運営、事業の改善のために利用者アンケートを導入しています。

今後も継続的に意見や評価を伺いながら、事業活動のサービスの質の向上を図ることで利用者の満足度を高めていきます。

常にOODAループ（ウーダーループ）、PDCAサイクルを念頭に置きながら対応していきます。



5 事業団が目指す地域像と組織

浜田市総合振興計画では、将来像を「住みたい 住んでよかった 魅力いっぱい 元気な浜田」とし、7つのまちづくり大綱に基づいて、人口減少対策に取り組まれています。

このうち、教育文化部門においては、まちづくり大綱を「夢を持ち郷土を愛する人を育むまち」とし、その施策として学校教育の充実、家庭教育支援の推進、社会教育の推進、生涯スポーツの振興、歴史・文化の伝承と創造とし、様々な施策が展開されています。

事業団は、浜田市が目指す将来像を構築するため、事業団が管理する施設の特色を最大限活かし、市民と更に強いきずなを築き、市民のための施設との認識のもと、市民のための事業を展開していきます。

そのため、事業団は次のような組織を目指します。

(1) 市民に頼られる専門性の高い組織

ライフスタイルや、興味関心などの価値観が多様化する中で、生涯学習施設の果たす役割も多岐にわたり、その傾向はますます顕著になっていくことが予想されます。そのような市民のニーズにこたえられる専門性の高い組織を目指します。そして、市民にとって、スポーツ・生涯学習が生活の一部になるような時間と場所と事業を提供していきます。

(2) 利用者の視点に立った人にやさしい組織

事業団の管理する施設は、多くの方々に利用いただいています。様々な世代の方、様々な目的で利用される方々に対し、それぞれの立場に立って考え行動し、利用者と職員がコミュニケーションの出来る組織を目指します。

(3) 人を育てる組織

事業団の最大の資産は職員です。職員一人ひとりが、広い見識を持ち、やりがいをもって仕事を進めていく環境が質の高い事業を提供することに繋がっていくものと考えます。職員自ら財団が目指す方向性を十分理解し、その方向に向かって行く人材育成のための組織を目指します。

(4) 環境変化に対応できる組織

各施設において受託以来様々な事業を展開し利用者からも一定の評価を得てきました。しかし、少子高齢化の進展や、SNS（Twitter、Line、Facebook等）の普及など、社会状況は大きく様変わりし、市民のニーズもそれに伴って変化しています。事業団は、アウトリーチ活動、広告媒体の時代の流れに乗った有効活用などにも力を入れ、環境の変化に対応できる組織を目指します。また、今後高齢化が一層進む中、高齢者が健康、生きがいづくり、社会貢献等において、社会に積極的に参加できる場や機会を提供していきます。

(5) 地域づくりに積極的に関わっていける組織

市内においては、様々な個人や、団体がそれぞれの活動を行っています。事業団もその一員としての認識を持ち、それを根底におきながら、地域のネットワーク作りに積極的に関わり、地域づくりに少しでも役立つ組織を目指します。また、展開する事業を通して、人と人が繋がりさらに地域づくりの気運が盛り上がるような事業を展開します。

(1) 浜田市世界こども美術館創作活動館

ア 人的な事柄

- (ア) 業務量に対するマンパワーが十分な状況ではありません。
- (イ) 職員もすべてが正職員ではなく、雇用条件等にも個々に差異があり、勤務体制の構築に苦慮する場面があります。
- (ウ) 各事業において、企画立案の段階からの十分な協議の場の確保が困難となっており、職員の共通認識に立って、深く工夫した新鮮な事業につながりにくい状況です。
- (エ) 他団体からの補助金等を活用した事業運営の必要性は十分承知しているが、限られた職員数等から、職員の負担は大きく諸事業への影響が懸念されます。
- (オ) 作品管理、資料管理の専従者が不在の状況です。
- (カ) 専門職の人数が不十分です。

イ 意識

美術館の存在意義はそれぞれが意識し仕事に臨んでいるが、その捉え方は様々です。

ウ 施設管理

- (ア) 築20年以上が経過し、汚れや破損及び諸設備の不備が生じているとともに、時代に即応した設備の対応が難しい状況です。
- (イ) 特に利用者への安全を十分考慮し、子どもの施設に相応した諸設備と美化活動は十分とは言えません。
- (ウ) 作品が収蔵庫に入りきらない状況にあり、収蔵庫外にしている現状で、安全かつ防カビ対策等の問題が懸念されます。
- (エ) 備品の管理及び事務関係の管理等、整理整頓や一か所での集中管理が十分ではありません。

(2) 石央文化ホール

ア 人的な事柄

- (ア) 変則時間での勤務のため、全職員による様々な案件に対しての十分な協議の場の確保が極めて難しい状況です。
- (イ) 特に技術職の確保について、その職員に想定外のことが発生した場合、その代役はたやすくは見つかりません。そのリスクが存在する状況にあります。
- (ウ) 営業努力の必要性は十分認識するものの、日々の業務に追われ、余裕のない状況にあります。

イ 施設管理

- (ア) 施設内のジュータン、椅子、蛍光灯等、大規模な修繕改修を要しないものについても、経年劣化による修繕等は年々増加の傾向にあり、今後その傾向はさらに顕著になるものと考えます。
- (イ) 駐輪場、駐車場の整備が出来ていない環境にあることは、事業の推進上からも大

きな障害となるものと考えています。

- (ウ) 2019年(平成31年)2月から施設敷地内すべてにおいて禁煙としたものの、不特定多数の参集による集会、催しの機能を持つ施設として、その対応策を検討する必要があります。

ウ 収支

利用者、利用料ともに減少傾向にあります。今後も少子高齢化により、この傾向はさらに顕著となってくることが予測されます。また、市からの補助金・助成金は、施設の改修や修繕へその大半を充てざるを得ない状況から、施設の運営費となっている現状があります。

(3) 石正美術館

ア 人的な事柄

- (ア) 日常業務、また、他館での展示協力などに追われ、収蔵品の整理、研究に十分な人と時間を傾注できない状況にあります。
- (イ) 観覧者が減少傾向にあり、イベント等により集客を図る必要性も十分承知しているところですが、これ以上の負担を職員に求めることは厳しい状況にあるものと考えています。

イ 施設管理

収蔵庫が手狭の状態となっています。

(4) アクアみすみ・浜田市室内プール(福井誠記念プール)

- ア 浜田市室内プール(福井誠記念プール)は、開設以来30年以上経過しており、個人用のシャワー室も男女のロッカールームにない状況です。
- イ 少子高齢化の時代に合ったプール教室の展開と指導員の確保が求められています。
- ウ 近隣類似施設との共存共栄による施設の活性化策が求められています。
- エ 水泳愛好者の普及・振興と会員増、収入の確保が求められています。

7 各施設の運営の方針及び取組み（個々の取組み）

(1) 浜田市世界こども美術館創作活動館

ア 運営方針

- (ア) 直接市民に影響を与え、市民が参加できる事業企画を通して市民文化に貢献します。
- (イ) 潤いのある次世代社会を目指し、次世代社会の構成者である、子どもの美的感性及び創造力の伸長に寄与します。

イ 事業戦略

(ア) 管理事業

a 人事管理及び予算管理

事業団の重点取組項目（具体的取組事項）によります。

b 施設設備管理

施設設備の老朽化は避けられなく、修理修繕はもちろん、取り替え時期を迎えた設備交換、そして年月の経過とともに時代に受け入れなくなった設備等が増加する中、一番に来館者の安全と快適空間の提供を念頭に置き、管理・配慮の徹底を図ります。

併せて、現状の職員構成を踏まえた配慮や、高価作品を預かる施設への配慮等から防災・防犯の徹底をより推進します。

c 施設利用

館内各室各部所が本来の利用目的として有効活用できるよう、整理整頓を工夫します。

また、3階多目的ホールを中心にギャラリー部分において市民の利用率を上げる方策を検討します。併せて光熱費を中心に、節約に努め節約体制について利用者の理解を得る工夫をします。

「美術館施設はそれごとアート」の考え方を大事にし、環境アート化に努めます。

(イ) 展覧会事業

浜田市世界こども美術館としての存在価値が県内外で周知され、評価も高いことから従来の事業を踏襲継続します。特に子どもの美的感性の育成や創造力育成のために、現代美術に力を入れます。

また、地方都市の美術館に与えられた責務である、郷土の美術文化の紹介を積極的に行います。

子どもの作品展においては、県内や全国的に最高作品が展示される現状を維持し、かつ、その広報に努めます。

(ウ) 創作活動事業

子ども対象美術館として最も大事な「観ることと作ることの一体化」の考え方を創作活動の推進力として大事にし、順調に推移している創作活動事業をより、子ども育成に似合う事業となるよう工夫します。また、現社会の現状を把握し、子どもの活動

だけでなく、高齢者の創作活動に取り組みます。

【目標値】

区分	2017 年度実績	2024 年度目標値
総入館者数	47,582 人	50,000 人

* 2017 年度 総入館者数 47,582 人 観覧者数 28,720 人 創作活動 9,639 人 ホール 34 件

(2) 石央文化ホール

ア 運営方針

次の3つの目標に向け、様々な事業を展開します。

- ① 活力ある地域づくりのための文化の殿堂に
- ② 地域住民の文化享受と創造活動の場に
- ③ 地域の伝統芸能の育成振興の場に

これらの活動を積極的にサポートでき、信頼される組織として存在感を示していきます。

また、浜田市総合振興計画を基に「芸術・文化の振興」を最重点目標とし、1人でも多くの市民が芸術文化に関わり楽しむことができる事業団ならではの事業展開を行います。

イ 事業戦略

(ア) 鑑賞事業

市民の文化活動の振興を図ることを目的に、芸術性および創造性に富み、質の高い優れた舞台芸術の提供、かつ市民の様々なニーズに応えられるよう、多種多様なジャンルの事業の鑑賞機会を提供します。

《具体例》

古典公演、和楽器公演 など

(イ) 普及啓発・創造事業

浜田市の歴史資源や地域文化を取り込んだ事業を行うことにより、浜田市の発信力を高めると共に、市民の芸術に対する親しみを高めます。また、これまで培ってきた経験や知識、プロデュース能力を活かし、県内外のホール文化芸術関係などと連携しながら個性ある創造的な事業の企画・制作に取り組みます。

《具体例》

映画祭、創作ミュージカル、ロビーコンサート など

(ウ) 市民育成事業

文化活動を担う市民の育成を図るとともに、市民の教養の向上や生涯学習のニーズに応える事業を行います。特に、次世代を担う青少年等の育成に関し、様々な視点や内容により提供を行います。また、積極的なアウトリーチを行うことにより、未来の浜田市のための地域活性化を促進します。

《具体例》

アウトリーチコンサート、アウトリーチ映画会、リコーダー大会 など

(エ) 連携事業

市内芸術文化団体、行政、市内外企業と連携し「文化による地域活性化」を目的に、あらゆる提案・協力・協働を惜しまず文化の発展に寄与します。

《具体例》

市内出身アーティストとの協働事業、伝統文化事業 など

(オ) 施設の貸出し事業

地域の文化芸術の活動拠点として、市民や文化団体に活動の場を提供することにより、当該団体等の運営や活動が円滑に進み、組織の充実や文化意識の向上とともに、石中央文化ホールの利用率及び自主事業参加者数の増加等に寄与します。

(カ) その他・情報発信事業

市民の文化芸術の活動に寄与することを目的に、様々な媒体による情報の発信・提供に取り組みます。特に昨今多様化するSNS（Twitter、Line、Facebook等）にも対応することを基本に「情報弱者」が出ないように配慮します。

《具体例》

SNS（Twitter、Line、Facebook等）、ホームページ、ロビー映像、情報誌、浜田市広報、新聞広告掲載欄、チラシ など

【目標値】

区分	2017年度実績	2024年度目標値
総入館者数	47,441人	50,000人

(3) 浜田市立石正美術館

ア 運営方針

- (ア) 石本正作品等の企画展を開催し美術鑑賞の機会を創出します。
- (イ) 庭の整備など施設の魅力化を図り来館者の満足度を高めます。
- (ウ) 市民が参加する企画展、絵画教室等を通して地域の芸術文化振興を図ります。
- (エ) 石本正の研究機関として作品資料の調査研究を行い、様々な機会に研究成果の発表を行います。

イ 事業戦略

(ア) 展覧会事業

a 石本正作品の企画展

収蔵する石本正作品の展示を通して石本正の芸術世界を紹介します。作品資料の調査研究から得られた新たな知見も展覧会を通して紹介していきます。

b 石本正が選んだ収蔵作品を展示する企画展

c その他の企画展

地元の石州和紙や日本画に関する企画展を開催し、最新の絵画表現の鑑賞機会を提供します。

- ・石州和紙を現代日本画家に提供し新作を発表する「石州和紙に描いた日本画展」

- ・全国の美術大学より推薦された日本画の優秀作品が並ぶ「石本正日本画大賞展」等

d ギャラリー展

貸会場として市内外の作家による個展やグループ展に利用いただきます。美術館主催の公募展を企画し、市民の出品を募ります。

創作活動を行っている方々の発表の機会として個人や団体に利用・参加を呼び掛けます。

(イ) 施設の管理運営

開館から 20 年が経過するため経年劣化による施設設備の不具合の発生が予想されます。日常の点検等に努め、利用者の安全に配慮し運営を行います。市と情報共有をしながら早めの改修計画・機器交換の実施計画をたて施設設備の管理を行います。

(ウ) 施設の魅力向上の取組

展示スペース以外の施設の魅力向上を図り、来館の動機につなげます。市民の憩いの施設としての認知度を上げ、来館者の満足度を高めます。

- 画伯が愛した花を季節ごとに楽しめるよう花木の整備、管理を行います。（「華晴苑」牡丹、「中庭」しだれ桜、「やすらぎの庭」スコットランドアザミ・あじさい・鶏頭・椿等）
- 画伯の画室を再現した「石本正のアトリエ」を活用し、特集展示や解説会などを通して石本の芸術世界を紹介します。
- 「石本正のアトリエ」併設の休憩スペースは画伯が制作中に聴いていたクラシック音楽を流し、美術関連図書の閲覧やお茶も楽しめるくつろぎの空間であることをアピールしていきます。
- 画伯が提案し市内外の約 900 人の手によって描かれた「塔の天井画」を紹介する機会を設け、地域の文化資源として認識されることを目指します。

(エ) 教育普及事業

社会教育施設として様々な世代の方が芸術文化に親しむ機会を提供します。

- 子どもの美的感性を育むことを目的に、創作活動や鑑賞の機会を提供します。学校の授業や遠足での利用など働きかけていきます。
- 展示作品の解説会や美術講座を開講します。

(オ) 絵画教室事業

芸術文化の振興を目的として、絵画教室・美術教室などを開講します。学芸員や現役作家が講師を務める専門性の高い講座から、創作することの楽しさを伝える教室などを行います。

また、創作活動をする市民の方を講師に迎えて創作教室を開催し、活動成果を地域の文化活動に活かしていただく機会にします。

それから、石本画伯が指導をされた「裸婦デッサン会」は引き続き当館の重要な事業として継続していきます。

- a 館長・学芸員・作家が講師を務める絵画教室
- b 裸婦デッサン教室
- c 石本正に係わりのある作家を講師に招へいし創作教室・講演会を開催
- d 市民の方に指導していただく創作教室の開催

(カ) 調査研究事業

画伯没後ご遺族により寄贈されたデッサンや資料の調査研究に注力し、石本正の研究機関として新たに得られた知見の蓄積と情報の更新、様々な機会に研究成果の発表を行います。

- a 石本正作品の調査研究。関連資料の調査研究及び整理
- b 石本正関係の作家の調査研究
- c 他美術館との連携・情報交換を行い、事業の質的向上に努めます。

(キ) 広報活動

様々な情報ツールを活用し効果的な広報を目指します。

- a 活動内容の報告や情報の発信として広報誌「ミュージアムニュース」の発行
- b ホームページ、ブログ、SNS（Twitter、Line、Facebook等）などを通じ、即時性の高い情報発信に努めます。
- c 「広報はまだ」、「ひゃこるネットみすみ」、施設パンフレットなどを活用し利用拡大を図ります。

(ク) 物品販売事業

図録、絵はがきやオリジナルグッズ等の販売を行います。

【目標値】

区分	2017年度実績	2024年度目標値
総入館者数	12,170人	12,600人

(4) アクアみすみ・浜田市室内プール（福井誠記念プール）

ア 運営方針

- (ア) 市民のスポーツ振興及び選手育成、健康増進を基本としながらも、生涯学習・社会教育施設としても地域に貢献できる管理運営を目指します。
- (イ) 学校・地域団体・行政と密接な連携をしながら、第二の福井誠を目指し選手の育成も含めて市民の健康増進の場としてだれもが気軽に安心して利用できる施設とします。
- (ウ) 特に当事業団が保有するアクアみすみや浜田市三隅B&G海洋センターとも連携しながら、水泳等の健康づくり活動を展開し、元気な市民を増やしていきます。

イ 事業戦略

- (ア) スポーツ活動等に親しむ場の提供事業
浜田市三隅中央公園、岡見スポーツセンター、田の浦公園オートキャンプ場、浜田

市三隅B&G海洋センター、浜田市室内プールの管理運営については、指定管理者制度において培ったノウハウを最大限発揮しながら、安全確保に取り組みつつ、浜田市のスポーツ振興を支える中核的施設として、スポーツ活動の企画や運営に対する相談・助言・企画サポート等、充実したサービス提供に努めます。

(イ) アウトリーチ事業

「座して待つ施設」から、積極的に地域、学校、公民館等へ出かけるアウトリーチ活動にも取り組み、健康講演会、水泳指導などを行い、市民の健康づくりの輪を広げ、施設のPRにも努めます。

(ウ) 連携事業

市内スポーツ関連団体、行政、市内外企業等と連携し、「スポーツによる地域活性化」を目的に、あらゆる提案・協力・協働を惜しまずスポーツ推進、発展に寄与します。また、元オリンピック選手等と連携し、プール指導者としての資質向上を図ります。

(エ) 地域スポーツ活性化事業

千葉すずスイムクリニック、KITAJIMAQUATICS(キタジマアクアティクス)と連携し、水泳教室や水泳キャンプを開催します。

県外の参加者も募り、浜田市の合宿誘致につなげるほか、スポーツ活動の振興に係る施設の空きスペースを活用し、喫茶コーナー、水着等の販売、プールキャットウォークを活用し、ホットヨガ体験教室等を実施します。

また、前期後期の受講生募集の前に無料体験講座を行い、利用者増を図ります。

(オ) 健康体力相談・アウトリーチ事業(介護・糖尿病予防事業)

浜田市民の健康体力の向上を目的に、「全身持久力測定」・「筋力測定」・「栄養相談」を実施します。その結果について、相談や助言、運動指導教室を開催し介護予防や糖尿病予防事業へもつなげます。

(カ) スポーツムーブメント醸成事業

障がい者スポーツの普及を目的として、浜田養護学校と連携し水泳教室を実施します。また、体育の日などの祝日は、各施設を無料開放するほか、新体力テストやスポーツ体験教室等を実施します。

(キ) 競技力向上事業、次世代のスポーツ選手の育成

競技力向上事業では、全国大会で活躍ができる選手の育成・強化及び指導者の資質向上を目的とした「テクニカルサポート事業」により競技力向上を図ります。

具体的には柔道整復師等と連携し、指導者講習会及び実践型ワークショップ等を実施します。

また、アスリートの環境整備を目的とした情報提供等を行なう「アスリートキャリアサポート事業」等を元オリンピック選手等と連携し実施します。

(ク) 情報発信活動事業

定期チラシ「レッツゴーアクアみすみ」など事業団のホームページの充実や、SNS (Twitter、Line、Facebook 等) による情報発信等により、アクセシビリティの向上を図ります。

(ケ) 物品販売事業

各施設において自動販売機、水泳用具などの利用者サービス事業を実施します。

【目標値】

区分	2017 年度実績	2024 年度目標値
総利用者数 (アクアみすみ)	68,606 人	70,000 人
総利用者数 (浜田市室内プール)	34,106 人	34,500 人

(5) 浜田市三隅B&G海洋センター

ア 運営方針

(ア) B&G財団 (ブルーシー・アンド・グリーンランド財団) のテーマである「水の事故ゼロ」を目標に、利用者が安全で安心して利用できるよう配慮し管理運営を行います。

(イ) 千葉すずウォーターセーフティアドバイザーや地域、公民館、学校とも連携し、親子・家族の絆の推進、青少年の健全育成や海洋性レクリエーションの普及を推進します。

イ 事業戦略

(ア) 青少年健全育成事業

未来を担う子どもたちのために、自然体験活動と水辺の安全教室を推進し社会貢献します。

(イ) HAMADAマリン郷育プロジェクト事業 (アウトリーチ事業)

浜田市が推進する「HAMADAマリン郷育プロジェクト」を主体的に担い、カヌー出前講座等を実施し、社会教育・学校教育における自然体験活動やキャリア教育を推進します。

(ウ) 地域スポーツ活性化事業 (総合型地域スポーツクラブ)

総合型地域スポーツクラブを集約する事務局機能を事業団内 (海洋センター) に設置し、「みすみスポーツクラブ」として発展させることを目標に取り組みます。

また、身近で健康づくりを体験できるアウトリーチ事業 (出前講座) 等にも力を入れます。

(エ) 海洋性レクリエーション活動支援事業

市内スポーツ関連団体、行政、市内外企業等と連携し、「スポーツによる地域活性化」

を目的に、あらゆる提案・協力・協働を惜しまずスポーツ推進、発展に寄与します。

(オ) 体験化格差解消事業

児童養護施設やひとり親家庭の子どもたちなど、困難な状況にある子どもたちにも、様々な活動に取り組んでもらえるよう、体験格差の解消に向けて取り組みを実施します。

(カ) 第三の居場所の確保づくり事業

家庭や職場、学校以外に「第三の居場所」となる拠点を海洋センターに設置し、自然体験活動を行う海洋センターを活用し、子どもから高齢者までの地域のつながりを生み出し、孤立することがない仕組みづくりに取り組みます。

(キ) 情報発信活動事業

事業団のホームページの充実や、SNS（Twitter、Line、Facebook等）による情報発信等により、アクセシビリティの向上を図ります。

【目標値】

区分	2017年度実績	2024年度目標値
総利用者数	8,479人	8,500人

8 重点取り組み項目（具体的な取り組み事項）

(1) 組織体制と人材育成

組織体制については、事業団の設立目的を達成するために事業計画進捗状況を確認しながら人員等の見直しを行います。また、将来にわたっての職員の年齢構成等を考慮しながら採用、配置を行います。

人材育成については、正職員、嘱託職員等を含め、接遇や文化芸術及びスポーツに関する専門的な研修、会計管理などの事務研修等の業務研修のほか、場合によっては派遣研修や一般的な教養研修などの幅広い研修を対象とし、職員の資質向上に努めます。

また、職場環境の充実にも力を入れ、優秀な人材については適正な評価を行い、やりがいにつながる職場環境の整備を進めます。

各施設の特異性から、特に技術職など専門職の確保には特に配慮します。

(2) 施設設備の管理運営

管理を受託するすべての施設の老朽化による更新、修繕は喫緊の課題となっている現状の中、今日まで培ってきた管理運営の専門知識やノウハウを活用し、高い水準で施設設備の管理運営を行うとともに、問題点の把握に努め、浜田市と連携を密にし、施設設備の「安全・安心の確保」、「市民サービスの向上」に努めます。

また、施設の老朽化及び利用者の多様化するニーズに合わせた改修・修繕が効果的に実施されるよう、積極的に協力していきます。

(3) 組織のスリム化の取組

施設ごとに、館長、施設長を配している現状です。その内容を十分精査しながら、館長、施設長の兼務等を検討し、効率的な事業連携及び施設運営方策を探っていきます。

(4) 施設共催事業の推進

複数施設で共催し行う事業の可能性を探ります。2つの美術館と文化ホール、また2つのプールやB&G海洋センターなど共催することで参加人数の増や参加者層の拡大、広報費用の節減などの相乗効果を目指します。

(5) 各施設の相互協力、事業の相互連携の推進

各施設においては、事務量の増加に伴い、1人当たりの負荷も増大していることから、職員の増員の要望は常に出されている現状にあります。

事業団として、各施設間の職員異動等も解決方策の一つとは考えますが、各施設とも、その専門性から人事異動も容易でなく、また、限られた財源の中で、職員の補充をすることも容易でない状況にもあります。

このような状況を踏まえ、また、職員のモチベーションの向上や組織としての一体感の醸成のため、多忙期、または、美術館まつりなど、特別な行事の際における、各施設間での積極的な相互の協力の助勤体制づくりを検討していきます。

また、各施設それぞれで企画立案し事業対応をしている中、各施設が連携しての事業への取組等についても検討し、相互協力、相互連携の体制づくりに取り組みます。

(6) 施設間の人的連携

事業実施にあたって、施設間相互に職員の人的応援が行える仕組みの構築を検討します。大規模イベントなど実施の場合、事業の目的が十分にかつ安全に達せられるために必要な人員を、他施設から応援にあたるようにします。

それぞれの施設の職員の持つ専門的知識や経験、能力を施設横断的に活用します。スポーツ施設の指導員、美術館の学芸員を他施設に派遣し教室やイベントを開催し、事業内容の幅を広げ利用者層の拡大を目指します。

デザインやイラストができる職員を活用し、ホームページの更新や印刷物の内製化などにより経費節減を目指します。

(7) インターネット活用による事業の効率化

会計事務においてインターネットのクラウドシステムを活用し、複数施設で複数担当者により作業をすることで効率化を図ります。会計事務所管理のシステムを活用することによりセキュリティ面の安全性や会計処理の正確性の向上を図ります。

(8) 事業団ホームページの開設

事業団の情報を集約し発信するホームページ開設をします。情報発信のポータルサイト（入口）として、既存の各施設ホームページへのリンク、更新情報の掲載、各施設 SNS（Twitter、Line、Facebook 等）への誘導を行います。

芸術文化に興味のある層に事業団が実施する幅広い事業内容の情報を提供することを目指します。

(9) 広報活動の集約

施設ごとに行っている広報活動の中で集約できるものがないか検証します。

広報物（ポスター・チラシ）の発送先・発送時期が共通するものをまとめて発送することや、事業団全体の情報を発信する広報誌の発行などを検討します。施設ごとに行う場合よりも経費を節減しつつ、効率的で効果的な情報発信の形を検証し実施を目指します。

9 収支計画

収入面においては、質の高い事業を実施するため、また自主的な持続性ある事業団運営を推進するため、事業収入や施設利用収入をはじめ、各種補助金等を積極的に確保します。

支出面においては、事業の選択と検証を徹底するとともに、事業費、施設管理運営費等すべてにおいて適切な支出に努めます。

計画期間中の収支計画は、次のとおりです。

(単位：千円)

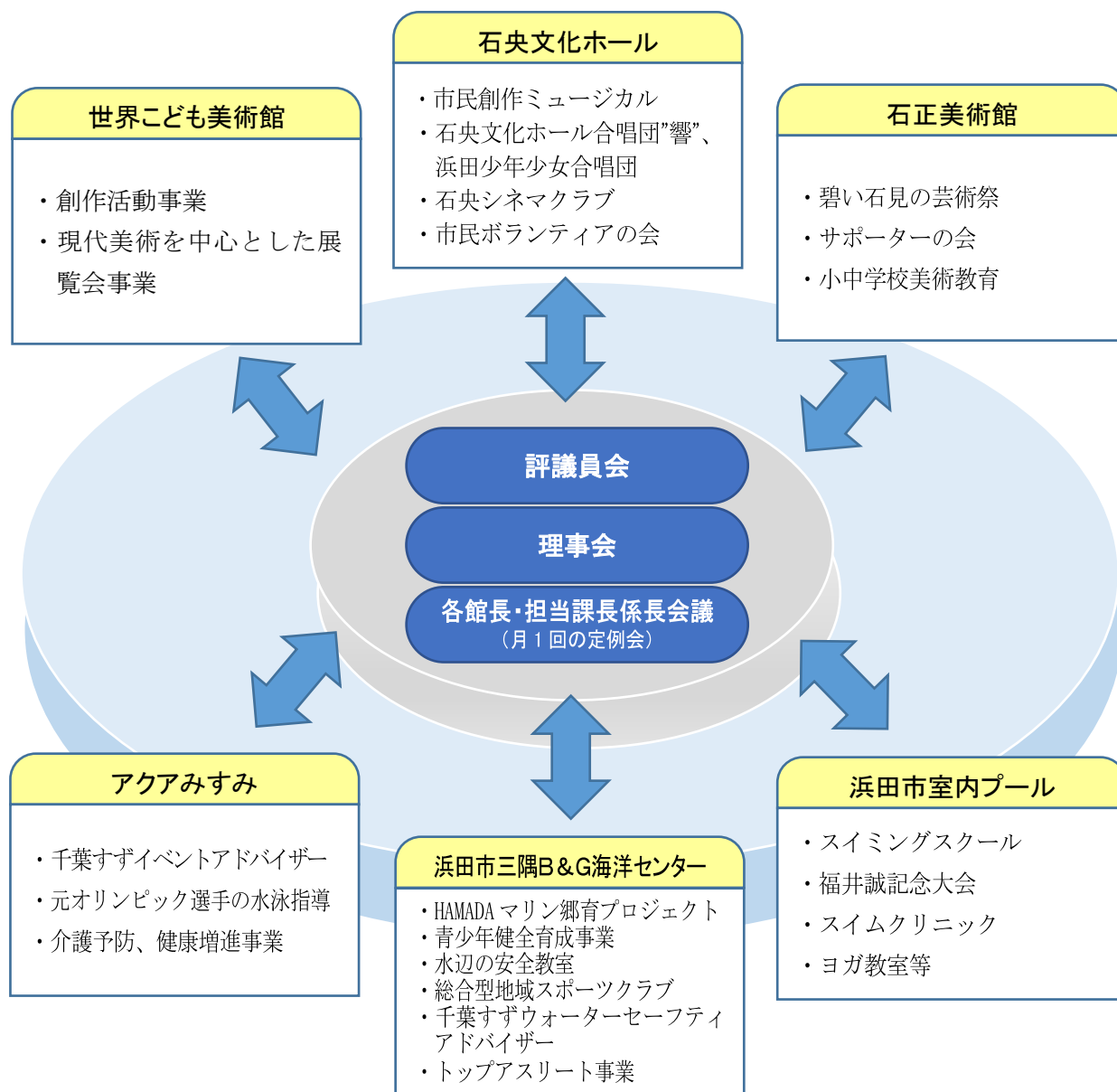
区分		2018年度実績 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	
収入	指定管理料	102,290	102,273	111,826	111,239	112,317	114,453	114,312	
	その他委託料	3,727	4,760	500	500	500	500	500	
	補助金収入		129,299	131,750	147,696	149,559	151,205	152,871	154,412
		浜田市補助金	126,285	125,896	146,142	148,005	149,651	151,317	152,858
		その他補助金	3,014	5,854	1,554	1,554	1,554	1,554	1,554
	自主事業収入	62,913	62,877	61,738	61,738	61,738	61,738	61,738	
	施設利用料収入	30,567	37,089	33,611	33,611	33,611	33,611	33,611	
	販売事業収入	1,960	2,350	2,250	2,250	2,250	2,250	2,250	
	雑収入等	2,181	2,732	2,388	2,388	2,388	2,388	2,388	
	収入計		332,937	343,831	360,009	361,285	364,009	367,811	369,211
支出	事業費		327,088	330,751	344,938	346,046	348,541	352,115	353,307
		人件費	116,117	119,784	131,313	133,886	136,179	138,681	140,937
		その他管理費	128,862	124,218	130,784	129,316	129,516	130,584	129,516
		自主事業費	81,658	85,907	81,991	81,994	81,996	82,000	82,004
		販売事業費	451	842	850	850	850	850	850
	管理費		12,966	13,080	15,071	15,239	15,468	15,696	15,904
		人件費	9,916	10,104	11,906	12,074	12,303	12,531	12,739
		その他管理費	3,050	2,976	3,165	3,165	3,165	3,165	3,165
	支出計		340,054	343,831	360,009	361,285	364,009	367,811	369,211
	収支差額		△ 7,117	0	0	0	0	0	0

10 計画の推進に向けて

事業計画に掲げる目標値の達成度を中心に、中期経営計画の進捗状況を毎年度把握し、理事会、評議員会に計画進行状況を公表します。計画期間中に、新たな環境変化や課題が生じた場合や、目標値の新設、改変を行う必要が生じた場合は、適宜計画を見直すこととします。

成果目標の達成状況を把握し、結果の如何にかかわらず、その理由を究明し、目標達成に向けた取組に反映することとします。

計画の推進・進捗管理体制



公益財団法人浜田市教育文化振興事業団組織機構図 (平成31年4月1日)

